

平成30年度『大楠小学校 学校評価』について

寒さもようやくゆるんでまいりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。さて、年度末となり本校でも学校評価を行いましたので、その内容についてご報告いたします。なお、学校評価は次のような流れで進めていきました。

1. 学校教育目標の実現のために、学校重点プラン（特に重点的に取り組むこと）を設定する。
2. 学校重点プランの達成状況を、教職員で自己評価する。
3. 教職員の自己評価が適切かどうかを判断する資料として児童・保護者アンケートを実施する。
4. 学校関係者評価委員会（学校評議員会）に結果を報告し、意見をもらう。（今年度は2月25日に開催）。
5. 最終的にまとめた結果を、保護者や教育委員会に報告する。

◆大楠小学校の「学校教育目標」は次の通りです。

「夢をもち 心豊かに たくましく生きる 大楠の子」
○物事をよく考える ○思いやりのある子 ○ねばり強くがんばる子 ○明るく元気な子

◆この目標を実現するために、次のように「学校重点プラン」を設定しました。

(1) 読み書きの向上

- ①すべての教科において「書く」活動を取り入れる。
- ②一人読みを中心にした朝読書を、全校で行う ③国語の教科書の音読を継続して行う。

(2) 漢字の読み書き、計算力の向上

- ①学校の授業で教えるだけでなく、定着のために家庭での学習を行う。

(3) 思いを伝え、高める力の向上

- ①校内研究（「特別な教科 道徳」）のなかで取り組んでいく。

(4) 健康な生活を営む力の向上

- ①持久走、大縄を全校で取り組む（新体力テストの結果が県平均を上回る）。
- ②「食への興味を高める」をテーマに取り組む（給食の残量の変化を見る）。

※（1）～（4）について学習状況調査の結果分析の活用をする。

◆この「学校重点プラン」に対する教職員の自己評価は次の通りです。

- (1) ①➡ 各教科で意識的に取り上げた結果、書いてまとめる活動がスムーズに行えるようになった。
②➡ 朝読書の活動が定着してきている。
③➡ 国語の教科書の音読は、授業中だけでなく家庭学習でも行っている。
- (2) ①➡ 漢字や計算力の定着のための家庭学習を、ほぼ毎日行うことができた。
➡ 節目ごとに定着確認のテストを行い、学級や個人の課題を把握することができた。
- (3) ①➡ 相手の考えを素直に受け入れるが、自分の考えの主張は弱い面がある。
- (4) ①➡ 新体力テストの結果、男子は全国の平均を上回っているが、女子は県の平均を上回るものの全国平均に届いていない。
②➡ 給食の残量調査では、6月は11月よりも2%ほど少なくなっている。

※達成状況についてまとめ

- アンケート結果（後述）を見ても、重点プラン（1）（2）（3）はほぼ達成していると判断できる。
- （4）に関しては、具体的な取り組みの設定自体があいまいで、評価自体が難しい。
- 学習状況調査の結果分析は、もっと活用の余地がある。

※今後に向けての改善方策

- 具体的な検証方法を見通してプランを作成する。
- 設定した学校重点プランの定期的な達成状況の確認、把握を行う。
- 学校全体で、学習状況調査の分析結果の活用方法を統一する。

◆最後に「学校評価アンケート」の結果をご報告します。

アンケートは「1. そう思う」「2. まあそう思う」「3. どちらともいえない」「4. あまり思わない」「5. まったく思わない」の5段階で評価していただきました。「1. そう思う」と「2. まあそう思う」を肯定的意見と捉え、これが80%を超えることを目標値と位置付けました。

そう思う+まあそう思う = 肯定的評価

【児童】435人

1	授業をよく理解することができましたか。	43+37 =80%
2	学校で自分ができるようになったところや、まだ力がついていないところがよく分かっていますか。	48+36 =84%
3	今よりもっと勉強ができるようになろうと努力していますか。	53+29 =82%
4	友だちと協力しあって学習することができましたか。	53+33 =86%
5	友だちと仲よく遊べましたか。	76+16 =93%
6	学校生活のきまりを守ることができましたか。	39+45 =84%
8	学校の中で、安全に気をつけた行動ができましたか。	39+43 =82%
9	学校の中はきれいにされていて、使いやすいですか。	48+27 =75%
10	学校であったいろいろなことを、おうちの人に話すことができましたか。	50+31 =81%
11	家では、規則正しい生活ができましたか。(早寝・早起き・朝ご飯を中心に)	30+34 =64%
12	楽しく元気に学校に通うことができましたか。	59+24 =83%
13	2人以上の先生や、少ない人数での授業は分かりやすいですか。	39+39 =78%
14	ボランティアやゲストティーチャーの人が参加してくれた授業は分かりやすかったり、楽しかったりしますか。	47+30 =77%
15	学校で下の学年の子のお世話をすることができましたか。	37+31 =68%

7(1) 学校で困ったことがあり、悩んだことがありますか。

そう思う 21% 時々思う 28% どちらとも言えない 15%
あまり思わない 17% まったく思わない 19%

7(2) 学校での困ったことや悩んだことについて、だれに話して解決しようと思いましたか。

家族 43% 先生 16% 友達 17% 話していない 12% その他 1%

○目標値を下回った項目は、「9」「11」「13」「14」「15」です。内容は「校内の環境」「生活習慣」「授業のわかりやすさ」「下級生との関わり」です。特に「11」と「15」が60%台と低い数値です。



来年度は、子どもの主体性や自律性を引き出していく働きかけに、一層取り組んでいこうと考えています。

○7(1)について、昨年度は、「そう思う 20%」「時々思う 20%」でしたので、少し増えました。一方で、7(2)について、昨年度は、「先生」が9%でしたので、この数字も少し増えました。



学校生活の中で様々な困り感・悩みを持っている子どもたちは少なくありません。今後も引き続き相談しやすい環境づくりを行い、トラブル等に対する早期発見・早期解決を心がけてまいります。

【保護者】399人

1	子どもは、安心して楽しい学校生活を送っていますか。	60+32 =92%
2	子どもは、授業が分かりやすいと言っていますか。	35+42 =77%
3	学校の授業は、基礎的な学力向上に役立っていますか。(特に読む・書く・計算する)	51+41 =92%
4	学校は、子どもの能力や努力していることを適切・公平に評価し、通信簿や面談を通して保護者に伝えていますか。	53+38 =91%
5	学校は、家庭と連携(学年・学級通信等)を図り、子どもについて困っていることなどの相談は、適切に対応していますか。	44+42 =86%
6	道徳の授業や学級指導、日頃の教師の言葉がけなどによって、子ども達がお互いの違いを認め合い、豊かな人間関係をつくることができていると思いますか。	33+49 =82%
7	学校は、家庭や地域社会と連携して「人権を尊重する意識」「命を大切に作る心」「社会のルールを守る態度」を育てようとしていますか。	41+46 =87%
8	様々な学校行事(運動会・遠足等)や学年行事は、子ども達に多様な経験をさせ、人間性の育成に役立つ取り組みとなっていますか。	63+32 =95%
9	地域の自然・文化・産業を活かした体験的活動を取り入れた授業は、学習効果を高めていると思いますか。	64+30 =94%
10	地域教育力の活用や教育支援ボランティアが参加した授業は、学習効果を高めていると思いますか。	53+38 =91%
11	学校は、安全対策・事故防止に配慮し、施設・設備などの点検がなされるとともに、学習環境美化に努めていますか。	35+48 =83%
12	児童の規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはんを中心に)について指導し、家庭に呼びかけていると思いますか。	48+41 =89%
13	算数の少人数やティームティーチングの授業形態は、学習効果を高めていると思いますか。	32+42 =74%

○「2」「13」が目標を下回りました。内容は「授業のわかりやすさ」「算数の少人数、TTの効果」です。いずれも「授業」についての項目です。児童のアンケートでも「授業のわかりやすさ」は目標に届いていませんでした。「授業」は学校の中心的な活動ですので、この項目が目標に達していないことは、大きな課題と捉えています。



来年度はこの項目の改善を図るため、年間計画に具体的な取り組み案を盛り込みます。

来年度に向けて

2020年度より、新しい学習指導要領が全面実施になります。その学習指導要領の中に次のような一節があります。

「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」

「社会に開かれた教育課程」は新しい学習指導要領のキーワードの一つです。特に重要な点は、次の2つです。

○これからの時代に必要な力(資質・能力)を明確にして、教育課程(教育の内容と実施計画)を作ること。

○その実施にあたっては、学校外の人々との連携を図ること。

来年度以降の大楠小学校の教育をより良いものにしていくためにも、これまで以上にオープンな姿勢で学校運営に取り組んでいきたいと思えます。

2019年度も、どうぞよろしくお願いいたします。